

# 『すばる映画祭 ~Film Collection~』

(タイトルにある“バカ塗り”は「津軽塗」のことを指す言葉)



ひたむきに塗る。

塗つては研いで、  
繰り返す――

# 日本が誇る伝統工芸 津軽塗が繋ぐ 父娘の物語。

# バカ塗りの娘

坂本長利

The image consists of two side-by-side photographs. The left photograph shows a man with dark hair and a woman with blonde hair looking down at a laptop screen together. The right photograph shows a woman with long dark hair standing by a window with multiple panes, looking out.

堀田真由

監督：鶴岡慧子  
脚本：鶴岡慧子  
小鳥、

# ものづくりは、まるで人生のよう。塗り重ねるたび、日々が豊かに彩られる。

海外では「japan」と呼ばれることがある“漆”。漆は時代を問わず、工芸品、仏像、社寺建築、芸術品など日本の歴史と文化を象徴するものに使用され、世界中の人々を魅了する。耐久性があり、たとえ壊れてしまつても修理してまた使うことができる漆器は、昔から日本人にとって大切な日用品として私たちの暮らしに寄り添つてきた。本作はその中でも、青森の伝統工芸・津軽塗をテーマに描かれる物語。タイトルにある“バカ塗り”は、津軽塗のことを指す言葉で、完成までに四十八工程あり、バカに塗って、バカに手間暇かけて、バカに丈夫と言われるほど、“塗っては研ぐ”を繰り返す。漆が丁寧に塗り重ねられるように、本作も津軽塗の完成までの工程を1カット1カットじっくり映し出す。そして津軽塗職人を目指す娘・美也子と寡黙な父・清史郎が、漆や家族と真摯に向向き合う姿を、四季折々の風景や、土地に根付く食材と料理、そこに生きる人々の魅力を織り交ぜ描く。

主人公・美也子役に堀田真由。将来への不安やほのかな恋心に揺れる等身大の女性をたおやかに演じる。津軽塗職人の父・清史郎には、日本映画界には欠かせない俳優、小林薰。二人は実際に地元の職人から津軽塗の技法を教わり撮影に挑んだ。監督は、初長編作『くじらのまち』でベルリン国際映画祭、釜山国際映画祭などで高い評価を得たのち、西加奈子の小説『まく子』の映画化も手掛けた鶴岡慧子。つらい時、楽しい時を塗り重ねるように日々を生きる父娘が、津軽塗を通して家族の絆を繋いでいく。



©2023 「バカ塗りの娘」製作委員会



「私、漆続ける」その挑戦が  
家族と向き合うことを教えてくれた――

青木家は津軽塗職人の父・清史郎と、スーパーで働きながら父の仕事を手伝う娘・美也子の二人暮らし。家族より仕事を優先し続けた清史郎に母は愛想を尽かせて出ていき、家業を継がないと決めた兄は自由に生きる道を選んだ。美也子は津軽塗に興味を持ちながらも父に継ぎたいことを堂々と言えず、不器用な清史郎は津軽塗で生きていくことは簡単じゃないと美也子を突き放す。それでも周囲の反対を押し切る美也子。その挑戦が、バラバラになった家族の気持ちを動かしていく――。

監督：鶴岡慧子 原作：高森美由紀 出演：堀田真由 坂東隆汰 宮田俊哉 木野花 小林薰

2023年/118分

## すばる映画祭 ~Film Collection~

令和6年 6月27日(木)

①10:30 ②14:00 (開場は各30分前)

[各回入替制]  
[全席自由]

全回日本語  
字幕付上映

入場料

一般 1200円 (当日1300円)  
割引 1000円 (当日1000円)

※割引対象は60歳以上・高校生以下・障がい者の方及びその介護者1名まで  
※料金は税込です

<すばる友の会会員前売> 一般 1000円 割引 900円

すばるホール 2Fホール  
SUBARU HALL (1階席のみ)

※ 駐車場に限りがあります 電車・バスをご利用ください

チケット販売所

すばるホール(ホームページからも購入可)

ラブリーホール/LICはぴきの

ローソンチケット【コード:55406】

5月2日(木) 発売開始(友の会も同日)